



NEWS OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

日本色彩学会ニュース

No. 242 2006年 6月号 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/color/>

発行人：富永昌治（日本色彩学会会長）
編集人：松崎雅則（ニュース編集委員長）
編集委員：大井義雄・永田泰弘・畠山富雄・日高杏子
光瀬はま子・八木橋利昭・渡辺明日香
特派員：BAE Ho joo（長野／韓国）

発行日：平成18年6月1日
発行所：日本色彩学会
所在地：〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-42
Tel/Fax：03-3565-7716 / 03-3565-7717
E-mail：ren-net@vega.ocn.ne.jp



鉄道 → 写真 → 画像評価 → 色

理事 犬井 正男

今日、交通博物館に行ってきました。神田万世橋の交通博物館は、開館から85年を経た今日、2006年5月14日で閉館です。最後の日とあって、大勢の入館者で混雑していました。私は、中学生の頃から鉄道に興味を持ち、鉄道友の会に入っていました。会員は交通博物館に無料で入館できますし、3階の映画ホールで上映する映画が毎週替わるので、上野（正確には池之端）に住んでいた私は毎週通っていました。鉄道の写真も撮っていました。まだ蒸気機関車が走っている頃で、被写体に事欠きませんでした。

鉄道写真を撮っているうちに、写真のほうに興味が移ってきました。高校時代は写真部に入り、撮影しては現像、引き伸ばしで明け暮れていました。コンテストに入賞したこともあります。大学に入ってから夢中で撮っていました。ヒューマニティ溢れる写真を撮るカメラマンになろうと思っていました。感度400のコダックトライXの100フィート缶をアメ横で買って、友人たちと分け合って使っていました。1年間でフィルム100本以上撮ったこともあります。あるとき、いいな！と思ってシャッターを切ったのですが、そのプリントを見てもそのときの感動が伝わってきませんでした。自分にはカメラマンとしての才能がないことをさとりしました。

その後は写真工学の研究者としての道を歩んできました。カラー写真からX線写真まで、色々な写真の画像評価を行ってきました。いまでは、写真から派生してカラーハードコピー、ディスプレイなどと対象が画像全般に広がり、画像評価とその関連分野に従事しています。

色は、階調、シャープネス、ノイズとともに画像評価の主要な因子です。色の勉強は、学生時代に日置隆一先生の色彩工学を受講したのが始まり

です。日置先生は時間中ずーっと黒板に書かれていて、学生はそれを写すだけで精一杯でした。色彩工学の授業も同じでしたので、講義をさぼると、いまのようなコピー機がない時代でしたから、友人のノートを写すのにさぼった時間だけ必要になりました。そのため、余りさぼらずまじめに講義に出席していました。この授業のノートに目次を付けると、一冊の本のようになり、卒業してからこのノートをよく見返したものです。

画像評価に従事している人は、人間の感覚とよい対応を示す客観的評価値をもたらす式を作ろうとしています。私もそのひとりで、主観評価を行うと、対象が人間なので、データがばらついたり曖昧な結果が出たりして、苦勞しています。これとは別に、美しいアルゴリズムを作りたいとひそかに思っています。色関係では、色再現システムの色域と最明色を高速に求めるアルゴリズムをそれぞれ作りました。これらはシンプルなアルゴリズムですので、必然的に計算時間が短くなり便利かと思えます。当時（十数年前）スーパーミニコンと呼ばれていたVAXで数時間かかっていた色域を求める計算が、このアルゴリズムを使うとPC（当時はマイコンと呼んでいた）で数分になりました。先日、このプログラムをPCで動かしたら、数秒で終わってしまいました。時代とともに、コンピュータの処理速度が速くなったのを実感しました。

最近いろいろと話題になっている団塊の世代のひとりですので、私の大学での研究生生活も終盤に入ってきました。あとひとつ、できれば二つ、美しいアルゴリズムを作りたいと、色々な問題に取り組んでいます。

（東京工芸大学工学部メディア画像学科）